PR

ひざの痛み、我慢していませんか？

治療の選択肢が広がるいま、ひざの痛みは早めの対処がカギ

年齢とともに多くの人が悩まされる、ひざの痛み。その主な原因は、変形性ひざ関節症とされています。ヒアルロン酸注射や手術が主な治療法ですが、近年、「バイオセラピー」と呼ばれるあらたな治療法に注目が集まっています。そこで今回、広がりをみせるひざ治療について、整形外科専門医である百瀬整形外科スポーツクリニック院長の百瀬能成先生にお話を伺いました。

一般社団法人MOSC
百瀬整形外科スポーツクリニック
（松本市）
院長 百瀬（ももせ） 能成（たかしげ） 先生

● 専門領域
スポーツ傷害・下肢関節疾患・リハビリテーション・再生医療

● 資格・所属学会
日本整形外科学会専門医・指導医／日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医／スポーツ医／日本スポーツ協会公認スポーツドクター／日本医師会認定健康スポーツ医／日本人工関節学会認定医

ひざ治療は手術以外の選択肢も

変形性ひざ関節症は、ひざ関節の軟骨がすり減り、炎症が起こることで痛みや腫れといった症状があらわれ、やがて骨が変形する疾患です。自覚症状がない方も含めると国内で2500万人以上いると推定されており、もはや国民病といっても過言ではありません。進行性であることに加え、気づきにくい疾患のため、ひざに違和感や痛みを感じたら早めの対処が必要です。

治療法としては、初期の症状であればヒアルロン酸注射などの「薬物療法」、変形が進んだ場合には「手術療法」を選ぶことが一般的でした。そうしたなか、新しい選択肢として注目されているのが「バイオセラピー」です。これは人間がもともと持っている「自己修復力」に着目した治療法で、手術するほどではないものの、ヒアルロン酸注射では十分な効果が感じられない場合に、あらたな選択肢として考えられる治療法です。

新しい選択肢バイオセラピーとは

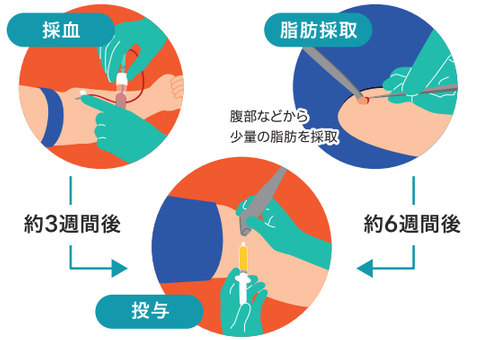
バイオセラピーの特徴は、人間に備わっている「自己修復力」を引き出す点にあります。自己修復力とは、例えば、すり傷ができた時に血小板などの働きによってカサブタができ自然に治っていく、そんな体の仕組みのことを指します。

バイオセラピーにはいくつかの種類がありますが、そのひとつが、患者さん自身の血液を活用する「PFC-FD™療法」です。血小板に含まれる「成長因子」と呼ばれる成分が痛みの原因にアプローチし、炎症を抑える効果が期待できます。実際に、プロスポーツ選手のケガの治療にも用いられています。

そのほかに、「脂肪由来幹細胞治療」があります。「幹細胞」とは、自己修復力の働きに深く関わる細胞で、この治療法では、患者さん自身の脂肪に含まれる幹細胞を活用することで炎症を抑え、さらに軟骨組織の修復も期待できるとされています。

このようなバイオセラピーは新しい治療法のため自由診療となり、また効果にも個人差があるため注意が必要です。しかしながら、長年治療を続けていてもひざの状態が改善しない方や、まだ手術には踏み切れない方にとって、検討してみてもよい選択肢のひとつだと思います。

バイオセラピーの治療のながれ



どちらの治療法も、採血または脂肪採取したのち、専門機関で加工後に、ひざに注射で投与するだけの簡便なものです。

早期受診が、治療の選択肢を広げる

ひざ治療は、以前と比べて選択肢が増え、症状に応じた治療が可能になってきました。しかし、違和感や痛みを我慢していると、いつのまにか症状が進行し、本来なら選べたはずの治療が選べなくなってしまいます。ひざ治療は早期に始めて、"進行させないこと"が何より大切。人生100年時代といわれるいま、"生活の質"に直結するひざの健康はますます欠かせません。ひざのお悩みは、早めに専門医にご相談を。正しい診断と早期対応こそが、治療の第一歩です。

企画・制作：セルソース株式会社（東京都渋谷区渋谷1-23-21 渋谷キャスト11F／お問い合わせ先：hizasoudan@cellsource.jp）
※PFC-FD＝Platelet-derived Factor Concentrate Freeze Dry
※「PFC-FD™」はセルソース株式会社の商標です。